

【パトナテラス吹田健都及びウエルカフェ等】

新型コロナウイルス感染予防のチェックシート

記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

利用希望者名 _____

お申込みいただいた利用内容や本チェックシートの回答を踏まえ、必要があれば事務局から事前にご連絡をさせて頂くことや、ご利用をお断りすることがございます。予めご了承ください。

① 参加者に確認する事項

- 予約時、基礎疾患（呼吸器疾患(COPD など)・糖尿病・心不全)の有無を確認する
- 予約から開催まで期間がある場合、開催の直前に再度体調などの確認を行う
- 以下の事項を参加者募集時や予約時にチラシ又は書面などで必ず告知を行う
 - ・必ずマスクを着用して来ていただくこと
 - ・来場時、「大阪コロナ追跡システム」へ登録していただくこと
(携帯電話・PHSをお持ちの方のみ)
 - ・当日、下記に当てはまる場合は参加の自粛をお願いすることがあること
 - 体調に異変がある場合
(主な症状：発熱・発咳・喉の痛み・強い倦怠感・味覚や嗅覚異常)
 - 新型コロナウイルス陽性者と過去 14 日以内に濃厚接触がある場合
(濃厚接触の定義：陽性者と 1m 以内の距離で 15 分以上接触すること)
 - 家族や身近な人で上記の体調異変や濃厚接触がある場合
 - 過去 14 日以内に感染が拡大している地域への訪問をしている場合

② 主催者が徹底する事項（準備段階）

- 密集場所や密接場面、大声を発する可能性のある内容は避ける
- 参加者は予約制にて募集する
- 「大阪コロナ追跡システム」を導入する
- 参加者の氏名・連絡先が把握できるようにする（名簿の作成・受付時に記入など）
- 不特定多数の者が触れる可能性のある箇所を来場者が入場する前に消毒する

- 主催者及びスタッフは会場へ入る前に必ず検温と体調チェックを行い、発熱や体調不良がみられる者は運営から外す
- 必要に応じて、飛沫防止用のパネルを設置する
- 出入口やその他必要箇所に消毒液を設置する
- 使い捨てマスクの予備や体温計(非接触タイプ推奨)、消毒液等の備品を準備する
(感染予防に関する備品は施設側で準備しておりません。必ず主催者が準備すること。
当日に準備できていない場合は、利用の中止をお願いすることがあります。)
- 重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方の参加に関しては特に注意する
- 直前の感染者数の動向も踏まえたうえで、開催の可否を検討する

③ 主催者が徹底する事項（イベント開催中）

- スタッフも必ずマスクを着用する
- 入場時等に検温を行う
- 不特定多数の者が触れる箇所は適宜消毒を行う
- ゴミの処理や清掃、消毒を行う際、スタッフの感染リスクが高まるので注意する
- 常時サーキュレーターを作動させ、窓を開けて換気を行う
- スタッフは、参加者との距離が近くなりすぎないように注意する
- 待ち時間等で来場者が一カ所に集中してしまう場合は、間隔を十分にとって誘導するなど密集や密接にならないよう対策する
- 急病人やけが人など、体調不良者が発生した場合は感染症対策に十分留意し、迅速に対応する
- スタッフで発熱等の体調不良がみられた場合はすぐに運営から外す

④ 主催者が徹底する事項（イベント終了後）

- 使用した施設において、参加者が触れた可能性のある箇所は全て消毒する
- 共用部においても、参加者が触れた可能性のある以下の箇所を全て消毒する
(階段の手すり・共用部の手すり・ベンチシート・エレベーターのボタンや手すり・トイレ内で使用時に手を触れる箇所)
- 使用済のマスク・ティッシュ等のゴミを処分する際は袋を重ねるなどして、中身が外に出ないように十分に注意する
- 備品や設備等を返却する際には、全て消毒を行う
- 参加者及び主催者側で、イベント終了後 14 日以内に新型コロナウイルスの陽性者が判明した場合は、主催者が責任を持って速やかに保健所へ連絡し、指示を受けて対応に当たる。また、事務局へも速やかに報告する
- 感染症対策において不十分な点や改善点、有効であった点などの振り返りを行い、利用後の報告シートを提出する

⑤ イベントの形式別の対策（該当する内容のみチェックしてください）

・ 参加型【ワークショップ】

（ものづくり・相談会など 一定時間、同一の場所にとどまって行う企画）

- 参加者とスタッフとの距離が近くなりすぎないように注意する
- 備品等共有する場合は、使用のたびに消毒を行う
- 参加者の配置を出来るだけ向かい合わないようにする
- 参加者の配置において距離が1m～2m程度確保できない場合は、飛沫防止パネルを設置するなど対策を講じる

・ 参加型【ディスカッション】

（討論や集会など、参加者を含めた複数人が声を発するような企画）

- 声が大きくなりすぎないように注意する
- マスクの着用もしくは飛沫防止パネルの設置を必須とする
- マイクを共有して使用する場合は、使用のたびに消毒を行う
- できるだけ参加者を対面で配置しない

・ 参加型【運動】

- 呼気が激しくなりすぎないように注意する
- マスクの着用が難しい場合は、パネルを設置するか、前後左右2～3m程度ずつ、広めの距離を確保するなど対策を講じる
- 備品等を使用する場合は、使用のたびに消毒を行う
- 近距離での補助等が必要な場合は、マスクなど十分な対策を講じた上で行う
- 参加者同士の接触が避けられない場合は事前の体調確認をしっかりと行う。少しでも不調がみられる場合は参加不可とする
- 熱中症には十分注意し、マスクを外しての休憩や水分補給を適宜行う。その際は参加者同士の距離に十分注意する（1m～2m程度間隔を保つ）

・ 講座/講義型

（講師など特定の人物が話し、それを参加者が聞くような企画）

- 講師からの距離を広めにとって参加者の席を設置する（2m～3m程度）
- 大きな声で話す必要のないよう、状況に応じてマイクや拡声器を使用する
- 参加者席は前後左右の間隔を1～2m確保する
- 質疑応答等で参加者がマイクを使用する際には消毒を適宜行う

・ 展示型

- 展示物と参加者との間に一定の距離を確保し、飛沫が付着するのを防ぐ
- 触れることの出来る展示などは避ける